



第4会場●4F 大研修室

■司 会／宿利 幸伸 大分県教育庁社会教育課 社会教育主事
安達 浩文 福岡県教育庁南筑後教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

13:30~13:35

1 地域の未来は公民館と地域商社がつくる

13:35~14:05

大庭 完(島根県益田市) 真砂公民館長および(有)真砂社長
岩井 賢朗(島根県益田市)

地域の活性化は地域の経済活動、食育活動がカギになると発想し、公民館は地元住民が創始した商社、地域内の小中学校と連携して、地域住民による休耕田を活用した安心・安全な食材づくりや、学校を巻きこんでの食育活動への支援を開始した。一方、商社は、公民館と連携し、市内4カ所の保育所への給食食材として安心安全で旬な野菜の提供を開始すると共に販路を拡大、学校や地域団体とも連携し、食材・食品の開発・加工・販売も手がけるようになった。このプロセスで休耕田の活用グループも誕生している。高齢者、住民の生きがいとなり公民館の活動参加者も増加し、食と経済活動を通じた地区内外の人々との交流も拡大している。

2 不登校クラス・ステップアップスクール当仁

14:10~14:40

内田富美子(福岡県福岡市) 福岡市立当仁中学校 ステップアップスクール代表

本事業は、中学校の不登校生徒を対象に、地域と学校が連携して将来の進路や人生の指針を見いだす支援事業である。1997年に開設、当初は夜間クラスからスタート、現在は、学校生活に馴染ませるため昼間のクラスも開設している。担任やクラスメイトとの接触が容易にできるよう「心の教室」を中学校内に設置し、専門家の助言も受けながら、進路の案内、受け入れ高校の見学会などを組み合わせている。また、親の会を組織化し、勉強会を続けている。15年の歴史の中で、100人以上の生徒が元気を取り戻して、卒業、進学、就職とそれぞれの人生の開拓に成功し、後輩のアドバイザーとして本事業に関与している。昨年、朝日新聞社一朝日のびのび教育賞を受賞した。

ティータイム

14:40~15:05

3 手づくりふるさと紙芝居

15:05~15:35

末岡美由紀(山口県光市) 光紙芝居 会長

平成17年、光図書館の絵本の読み合い仲間を中心に15名のメンバーで「光紙芝居」を結成した。紙芝居の素材は市内に埋もれた歴史、伝説、言い伝えを聞き歩く中で掘り起こし、ふるさとを主題とした手づくり制作である。手づくり紙芝居45作品、上演回数608回(年平均86回)。ふるさとを主題としたことで、広く様々な人々との関わりが可能になり、学校、公民館、図書館などでふるさと学習、歴史探訪平和学習の一環で上演が続いている。2011年には、「山口どこでも紙芝居フェアin光」を開催して、県内関係者との連携を深めた。上演依頼に応えながら、会員の勉強会や紙芝居のレベルアップに努め、合わせて会が主催する紙芝居の上演プロジェクト、紙芝居を使ったふるさとマップの作成など地域活性化のお手伝いになれば、と活動を継続している。

4 歌で結び、歌で創る「人生の再生工場」 —合唱愛好グループの生き甲斐づくりと地域連帯への貢献—

15:40~16:10

海老原郁子(鹿児島県鹿児島市) 音楽グループ指導者

平成2年、鹿児島市公民館講座「思い出の歌」の終了と同時に、自主グループ「やまびこの会」が誕生。それをきっかけに複数の音楽講座が育ち、合唱・斉唱を問わず、歌声の輪が広がり、現在では公民館の他、民間のカルチャー講座やボランティア活動等の自主グループが14団体、延べ人数430名に至る。

中でも、女声合唱団Mハーモニー(約40名)と混声合唱団『いきいき』(約70名)は県の混声合唱連盟に加盟して発表するほか、時には合同でコンサートを実施。特に混声合唱団は平均年齢72歳。社会人として一応の役を終えた人々が歌を通して、健康生きがいづくり・仲間づくりをする。「人生の再生工場」と位置付け、発表活動を展開している。この14団体の総称を海老原音楽グループとして、平成25年度もほぼ月に1~2回の割合で、市内外での公開コンサートを予定している。